

目次

東海国立大学機構 START

機構長挨拶	1
PROCESS 東海国立大学機構設立までのあゆみ	3
CHALLENGE MISSION 東海国立大学機構のチャレンジ	
・世界最高水準の研究の展開による知の拠点化	3
・国際通用性のある質の高い教育～アカデミック・セントラル～	5
・「環境」研究、教育の融合	6
・「with コロナ」へ 東海国立大学機構のチャレンジ	7
目次/環境報告書編集方針/報告対象期間、報告対象範囲、環境報告書2020の特徴	9
総長メッセージ	11
SDGsと新型コロナウイルス問題	12
名古屋大学キャンパスマップ（東山・鶴舞・大幸）	13
名古屋大学の持続可能な社会に向けた活動が各分野で評価	15
名古屋大学学術憲章/名古屋大学環境方針	17

1 環境に関する教育・研究 18



■教育

1-1 「水」にまつわる環境問題を多様な国籍の学生同士が英語で議論する	19	4	13	14
1-2 東郷フィールドの実習で持続可能な農業を体験	21	2	12	4

■研究

1-3	CO ₂ 量抑え抽出に成功 微細藻類からバイオ燃料	23		7		2		
1-4	台風の航空機観測	25		7		2		
1-5	[学生による研究者へのインタビュー] 原点を大切に 名古屋大学と「持続可能な開発目標(SDGs)」	27		4		8		17

■各章は、名古屋大学環境方針「2. 基本方針」(P17)の内容に対応した構成としています。

第1章：基本姿勢（教育・研究）

第2章：社会的責任・環境コミュニケーション

第3章：環境マネジメント・環境パフォーマンス

環境報告書 編集方針

名古屋大学環境報告書は、本学の環境に関する幅広い取組を、本学の構成員はもちろん、中学・高校生などの若い世代、近隣地域にお住まいの方など多くの方に知っていただくことを目的として作成しています。本学の環境方針(P17)に沿って、「基本姿勢(教育・研究)」「社会的責任・環境コミュニケーション」「環境マネジメント・環境パフォーマンス」の3つの軸で構成しています。また、環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」に一部準拠して作成しています。

報告対象期間

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）
※一部に他の年度の取組も含みます。

報告対象範囲

東山・鶴舞・大幸・東郷ほか国内主要キャンパス
(詳細はP58をご覧ください)

環境報告書2020の特徴

幅広い環境活動を紹介

環境保全や省エネルギーに関する取組だけでなく、ダイバーシティ、安全衛生、防災、SDGsに関する取組など、幅広い活動を広義の環境活動ととらえ、紹介しています。

目標を明示

目標と達成のための方法、取組結果の評価をできる限り明確に表記するよう努めました。なお、本学のキャンパスマネジメントに関するビジョンの詳細は「名古屋大学キャンパスマスタープラン2016」*で公開しています。

*<http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/06other/guideline/cmp.html>

学生の視点を重視

中学・高校生や学部生の視点を意識して編集しています。本書「編集チーム」「評価チーム」には多くの学生に参加してもらい、若い世代の意見を取り入れています。

組織としての課題を明示

取組の成果だけでなく、現状の課題とその改善のための取組についても掲載しています。

総長メッセージ



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、人類社会に極めて深刻な影響を与え、経済格差や人種差別、高齢化などを含むあらゆる社会問題を改めてあぶりだしました。人類は今まさに、新しい社会の在り方を模索すべき大きな転換期を迎えたと言えます。加えて、気候変動や環境破壊などの問題は待ったなしの状況にあり、毎年のように大型台風や豪雨などによる大規模な気象災害が発生しています。これらの、人類の持続的発展を阻害する多数の要因が絡んだ複合的な課題の解決に立ち向かうことのできる人材を育成すること、また、課題解決のための学術研究を推進し、成果を社会に還元することは、大学の果たすべき最も重要な役割の一つです。私たちは、働き方や教育方法の見直し、デジタル革命時代に相応しいデジタルユニバーシティの実現など、新しい大学の在り方を模索し、新たな高等教育機関のモデルを構築するための大いなるチャンスであると捉えて、前向きな一歩を踏み出したところです。

折しも 2020 年 4 月より、岐阜大学とともに、「国立大学法人東海国立大学機構」を設立し、従来からの学術研究や教育、地域貢献などの連携をより一層確かなものとしたところです。環境問題の解決や SDGs の達成に向けた取組に関しては、学術的な側面はもちろんのこと、大学の環境マネジメントや持続可能なキャンパスの構築へ向けた取組、安全衛生や防災などについても、すでに情報交換や連携を進めているところです。

名古屋大学環境報告書 2020 では、本学の環境に関する幅広い取組を、名古屋大学環境方針に沿って「教育・研究」「社会的責任・環境コミュニケーション」「環境マネジメント・環境パフォーマンス」の 3 つの軸でご紹介しています。2019 年度は本学の環境や防災への取組が評価され、愛知環境賞など数多くの賞をいただくことができました。これからも、東海国立大学機構の構成員が一丸となって、持続可能なキャンパス並びに持続可能な社会の発展に貢献していきます。今後とも本学へのご支援・ご鞭撻をいただければ幸いです。

2020 年 9 月

名古屋大学総長

松尾 清一



SDGs と新型コロナウイルス問題

2019年度末から2020年度の初めにかけて、日本社会は新型コロナウイルス感染症への緊急対策に追われました。新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延は、生態系の破壊により人と野生動物の接触機会が増えたこと、都市化の影響により人口の局所的な過密が起きていること、グローバル化により国境を越えた人の移動が増大したことなどの要因と関係があるのではないかとされています。この人類未曾有の危機への対応は、SDGsへの取組と深い関係があります。生態系の保護、感染症への対処、持続的な経済成長、貧困と格差の解消、安全・安心な労働環境の確保、ジェンダー不平等の根絶、質の高い教育の普及等、今回の危機を通じて浮かびあがる多くの課題は、SDGsが定める目標に包摂されています。忘れてはならないのは、これらの課題はそれぞれ独立して存在するものではなく、その根底において、グローバル社会がこれまで推し進めてきた開発のあり方と深く関わりがあるという点です。逆説的ですが、これまでの「持続可能な開発」のあり方を見直すため、今こそ「持続可能な開発目標」への真剣な取組が求められていると言えます。

新型コロナウイルスへの対応は、大学においてもさまざまな変化をもたらしました。中でも、教育や管理運営業務における急激なデジタル化や在宅勤務の導入は、大学における将来の働き方や教育の改革につながり、SDGsの達成にプラスに影響するものです。また、医学や情報分野における新型コロナウイルス感染症克服に向けた研究も、

大学の枠を超えたより広い社会におけるSDGsの達成に、大きく貢献するものです。同時に、大学には、上述した「持続可能な開発」を生み出す社会の価値観を転換させるために必要な知的リーダーシップを発揮する責任があることも忘れてはなりません。

2019年度の環境報告書における挨拶で、「持続可能な開発」とは、限られた資源の公正な配分や「豊かさ」の再定義と切り離せない関係にあると書きました。今回、期せずして、新型コロナウイルス問題の発生により、私たちはまさに「豊かさとは何か」という問いを投げかけられる形となりました。本環境報告書で紹介する名古屋大学の取組は、私たち一人ひとりがこの問いについて考えるための一助になると思っています。



副総長(広報・SDGs・LGBT・人権担当)
伊東 早苗

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsとは

持続可能な開発目標。貧困を終わらせ、すべての人が平等な機会を与えられ、地球環境を壊さずに、よりよい生活ができる世界を目指しています。



名古屋大学キャンパスマップ(東山・鶴舞・大幸)



CO₂量抑え抽出に成功
微細藻類からバイオ燃料

(P23.24)



大規模災害を想定した対応準備
と連携活動

(P37.38)



「水」にまつわる環境問題を多様な
国籍の学生同士が英語で議論する

(P19.20)



生きものと人が共ににぎわうために

(P33)



原点を大切に
名古屋大学と「持続可能な開発目標
(SDGs)」

(P27.28)



CAS-Net 教職協働の省エネへの取組

(P40.47)



森・街連携による都市の木質化プロジェクトと
地域や学生が主体となった環境教育(ESD)活動
(P31.32)



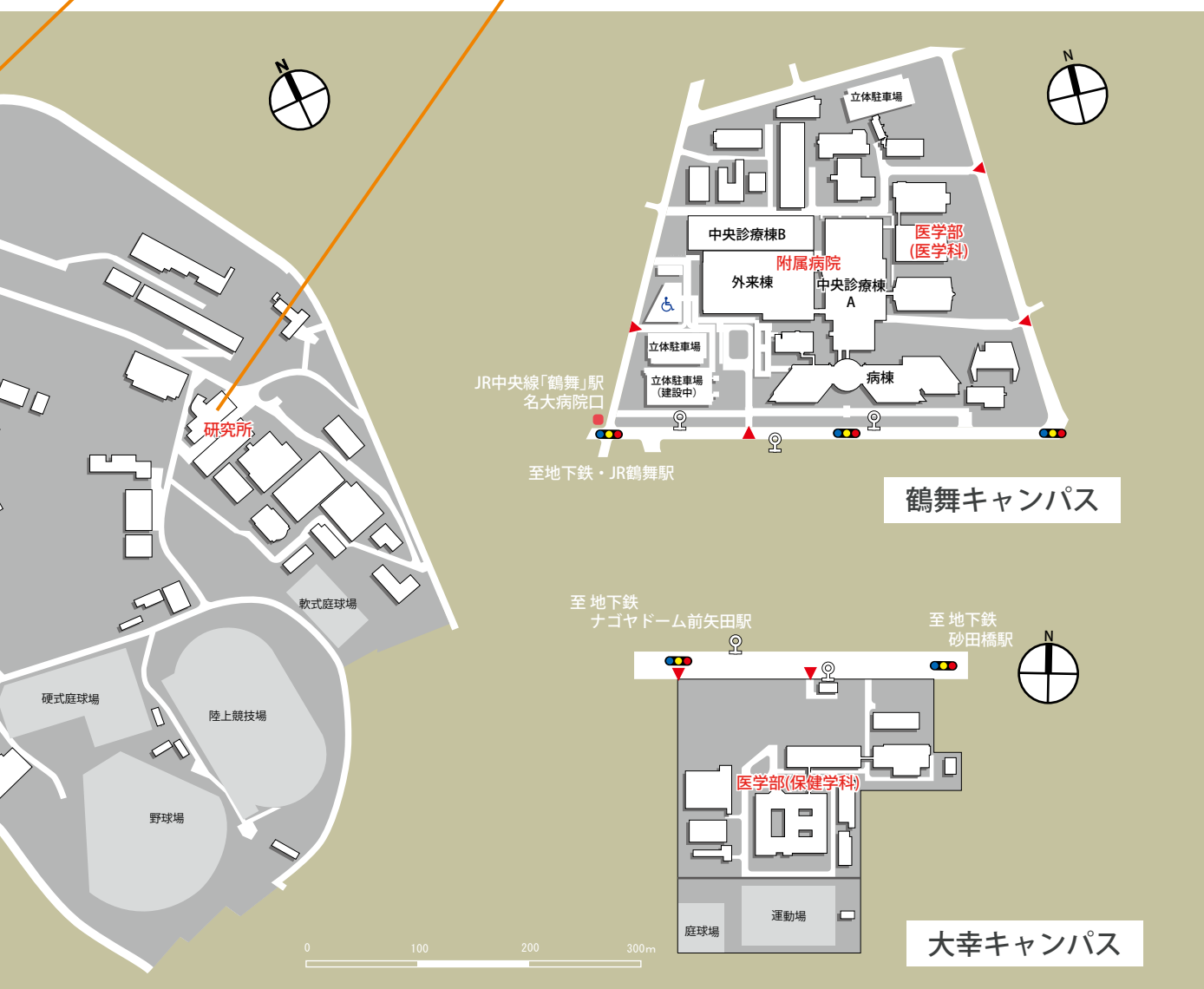
台風の航空機観測

(P25.26)



東郷フィールドの実習で持続可能な
農業を体験

(P21.22)



大学生から始める環境活動

(P34)



学生サークルによる
継続的な環境への取組の実践

(P35.36)



創薬研究における廃棄物削減

(P39)



名古屋大学の持続可能な社会に向けた活動が各分野で評価

名古屋大学では、持続可能な発展を目指した世界最高水準の教育、研究、社会貢献を進めており、こうした多岐にわたる取組が各分野で評価されています。



2020 年愛知環境省賞 主催：愛知県

受賞者：名古屋大学 都市の木質化プロジェクト、MOKKO 木材・木造建築物学生会、錦二丁目まちづくり競技会・都市の木質化プロジェクト



都市の木質化プロジェクト

「愛知環境賞」は、資源循環や環境負荷の低減を目的とした先駆的な事例を募集し、優れた取組を表彰するものです。名古屋大学 都市の木質化プロジェクトとMOKKOなどによる「森・街連携による都市の木質化プロジェクトと地域や学生が主体となった環境教育 (ESD) 活動」が、環境意識の向上や地域の環境活動の推進に大きく貢献するものと高く評価され、銅賞を受賞しました。この活動では、地域や世代を超えたさまざまな人々が連携し、都市部での木材利用を通じた森づくり・人づくり・街づくりに取り組んでいます。

愛知環境賞ホームページ

<http://aichikankyoushou.jp>

(関連ホームページ)

http://aichikankyoushou.jp/_files/00010177/2020_04_bronze.pdf

⇒関連記事：P31. P32



第5回サステナブルキャンパス賞「建築・設備部門」奨励賞 主催：CAS-Net JAPAN (サステナブルキャンパス推進協議会)

受賞者：名古屋大学



授賞式の様子

「サステナブルキャンパス賞」は、持続可能なキャンパスの実現に向けた大学等の優れた取組事例を表彰するものです。2019 年 11 月に開催された CAS-Net JAPAN 2019 年次大会にて、名古屋大学 COI まちづくりプロジェクトによる、「キャンパスから発信する地域産木材を活用したデザイン」の取組が『建築・設備部門』で奨励賞を受賞しました。

CAS-NET JAPAN ホームページ

http://www.esho.kyoto-u.ac.jp/?page_id=1279

⇒関連記事：P40. P47



第13回キッズデザイン賞(子どもたちを産み育てやすいデザイン部門) 主催：キッズデザイン協議会

受賞者：名古屋大学 環境学研究所 太幡研究室



名古屋大学内「多世代共用スペース」

「キッズデザイン賞」は、子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・サービス・空間・活動・研究を対象とする顕彰制度です。「子連れコワーキングスペース」(名古屋大学内の「多世代共用スペース」(NIC)、下呂市内の「オーガニックワークプレイス」)が第13回キッズデザイン賞(子どもたちを産み育てやすいデザイン部門)を受賞しました。

キッズデザイン賞

<https://kidsdesignaward.jp/index.html>



令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰 主催：内閣府
受賞者：名古屋大学 減災連携研究センター長 福和伸夫 教授



授賞式の様子

防災功労者内閣総理大臣表彰は、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及または防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体または個人を対象として表彰するものです。専門分野である建築物の耐震安全性向上に関する研究成果のほか、南海トラフ地震を始めとする地震対策への貢献、防災教育活動への貢献、地域への貢献、名古屋大学減災連携研究センターの設立など、福和教授の多岐にわたる防災・減災への功績が評価され、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。

(関連ホームページ)

<http://www.bousai.go.jp/pdf/kourousho.pdf>

⇒関連記事：P37. P38



BRITA 学生マイボトルコンテスト 2019 オルタナ賞 主催：BRITA JAPAN
受賞者：名古屋大学 環境サークル Song of Earth



コンテスト賞状



マイボトルコンテスト

「BRITA 学生マイボトルコンテスト」は、ペットボトルなどの使い捨てプラスチックごみ削減を目指し、学生の自由な発想でマイボトルを持つ人を増やすアイデアを募集したコンテストです。Song of Earth が提案した「マイルでスマイルマイボトル」では、ボトルとスマートフォンを連動させることにより、持ち運んだ距離をポイント化することでマイボトルを普及させるというユニークな発想と、ライフサイクルアセスメント (LCA※) をベースとした考え方が評価され、オルタナ賞を受賞しました。

BRITA 学生マイボトルコンテスト 2019 受賞者一覧
<http://mbcon.jp/result/>

※ LCA:P34 参照

⇒関連記事：P34



THE 大学インパクトランキング 2020 で、国内9位にランクインしました

イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が発表する THE インパクトランキングで国内9位となりました。

THE インパクトランキングは大学の社会貢献の取組を国連の SDGs の枠組みを使って可視化するランキングで、2019 年から始まったものです。2 回目の今回は世界 766 大学、国内 63 大学が総合ランキングの対象となりました。本学は今回が初参加で、総合ランキングにおいて世界 201-300 位、国内 9 位タイにランクインしました。

主な項目		世界順位	国内順位
SDG2	飢餓	69 位	8 位
SDG5	ジェンダー	301-400 位	2 位タイ
SDG8	成長・雇用	101-200 位	2 位タイ
SDG9	イノベーション	48 位	6 位
SDG10	不平等	201-300 位	3 位タイ
SDG11	都市	101-200 位	4 位タイ
SDG13	気候変動	101-200 位	3 位タイ

(関連ホームページ)

https://www.timeshighereducation.com/rankings/impact/2020/overall#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/undefined

名古屋大学 学術憲章

名古屋大学は、学問の府として、大学固有の役割とその歴史的、社会的使命を確認し、その学術活動の基本理念をここに定める。

名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする。とりわけ、人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する。このために、以下の基本目標および基本方針に基づく諸施策を実施し、基幹的総合大学としての責務を持続的に果たす。

1. 研究と教育の基本目標

- (1) 名古屋大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す。
- (2) 名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる。

2. 社会的貢献の基本目標

- (1) 名古屋大学は、先端的な学術研究と、国内外で指導的役割を果たしうる人材の養成とを通じて、人類の福祉と文化の発展ならびに世界の産業に貢献する。
- (2) 名古屋大学は、その立地する地域社会の特性を生かし、多面的な学術研究活動を通じて地域の発展に貢献する。
- (3) 名古屋大学は、国際的な学術連携および留学生教育を進め、世界とりわけアジア諸国との交流に貢献する。

3. 研究教育体制の基本方針

- (1) 名古屋大学は、人文と社会と自然の諸現象を俯瞰的立場から研究し、現代の諸課題に応え、人間性に立脚した新しい価値観や知識体系を創出するための研究体制を整備し、充実させる。
- (2) 名古屋大学は、世界の知的伝統の中で培われた知的資産を正しく継承し発展させる教育体制を整備し、高度で革新的な教育活動を推進する。
- (3) 名古屋大学は、活発な情報発信と人的交流、および国内外の諸機関との連携によって学術文化の国際的拠点を形成する。

4. 大学運営の基本方針

- (1) 名古屋大学は、構成員の自律性と自発性に基づく探究を常に支援し、学問研究の自由を保障する。
- (2) 名古屋大学は、構成員が、研究と教育に関わる理念と目標および運営原則の策定や実現に、それぞれの立場から参画することを求める。
- (3) 名古屋大学は、構成員の研究活動、教育実践ならびに管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、開かれた大学を目指す。



名古屋大学 環境方針

名古屋大学は、その学術活動の基本理念を定めた「名古屋大学学術憲章」において、「自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする」と記している。名古屋大学は、この学術憲章に基づき、文明の発達や現代人の行動が未来の世代に与える影響の重大さを認識し、想像力豊かな教育・研究活動による人類と自然の調和的発展への貢献と社会的役割を果たしていくために、次の基本理念と基本方針を定める。

1. 基本理念

名古屋大学は、人類が築きあげてきた多様な文化や価値観を認め、次世代のために真に尊重すべきことは何かを考え、持続可能な社会の実現に貢献する。

2. 基本方針

(基本姿勢)

- (1) 名古屋大学は、環境問題の原因を究明し、これらに適切に対処していくため、すべての学術分野において、持続可能な発展を目指した教育と研究を進める。

(環境マネジメント)

- (2) 名古屋大学は、環境マネジメントの継続的改善を図るため、大学のあるべき姿となすべき行動を関係者とともに考え、実践し、追求する。

(環境パフォーマンス)

- (3) 名古屋大学は、自らの活動が環境に及ぼす影響や負荷を関係者とともに認識し、環境負荷の低減や未然防止に向けた総合的かつ体系的な課題解決に努める。

(社会的責任・環境コミュニケーション)

- (4) 名古屋大学は、法令等の遵守、倫理の尊重、情報の公開、関係者とのコミュニケーションや相互理解を通して、地域社会や国際社会からの信頼を高める。